

## ひとりで実施する血栓回収術 SNAKE を再考する

木幡 一磨<sup>1)</sup>

1) 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 脳卒中科

脳血管内治療の超急性期治療として経皮的血栓回収術が広まり10年以上経過しさまざまな新規デバイスが発表され、臨床で多くの患者が恩恵を受けられるようになった。一方で医師の働き方改革や時間外労働に対する社会的な認識も徐々に変容し、夜間休日帯での緊急手術を実施するにあたり人員の確保が困難になりつつある。時間制限のある治療となるため施設によっては一人で手術を担当することになるケースもあると思われる。可能な限り短時間で安全に再開通を得るために演者は Sofia Non-wire Advancement technique (以下 SNAKe) を選択する事が多い。特に助手が不在、あるいは人数が少ない場合に選択し、良好な結果を得ている。オリジナルの方法では吸引カテーテルである Sofia をマイクロガイドワイヤーとマイクロカテーテルを使用せずに誘導し吸引して血栓回収を実施する手法であるが、やや修正を加えて一人の術者であっても短時間で良好な結果を導くような工夫をしている。結果について後方視的に当院の症例について検討した。2021年10月から2023年10月までの2年間で当院で実施した機械的血栓回収療法のうち、演者が SNAKe あるいは若干の変法を用いて実施した血栓回収術について、その他の方法で実施された血栓回収術と比較し、再開通時間及び結果、さらに経済的な側面も併せて評価を行い、文献的考察も加えて報告する。